



**KANSAI  
UNIVERSITY**

---

# 教職支援センター年報

---

2017

関西大学 教育推進部  
教職支援センター

# 『教職支援センター年報 2017』 目次

## 投稿原稿

感動は不可欠だが危険もある

ー小・中学校における特別活動の指導法をめぐるー考察ー

兵庫大学現代ビジネス学部准教授 岡本 洋之 ..... 1

土5限の国語教室ー国語科教育法（三）（四） 非常勤講師 桧井 英人 ..... 10

高等学校・公民科「倫理」における「心に響く教材」の発見

ー儒教理解のための生活感情を組み入れた資料開発ー 非常勤講師 浜田 直也 ..... 15

教員としての資質・能力を高める授業実践 非常勤講師 西出 博行 ..... 21

## 1. 教員の養成の目標

関西大学教職支援センターの基本理念 ..... 38

## 2. 教員の養成に係る組織

教員の養成に係る組織 ..... 39

教職支援センター規程 ..... 40

## 3. 教員の養成に係る授業科目

教職に関する専門教育科目および科目担任者一覧 ..... 42

## 4. 教員免許状の取得の状況

各学部・大学院で取得できる教員免許状の種類・免許教科 ..... 47

介護等体験 参加者数 ..... 49

中学校・高等学校教育実習生数 ..... 50

教員免許状取得状況・免許取得者数一覧（学部・大学院） ..... 51

教員免許取得までの諸手続き ..... 58

## 5. 教員への就職の状況

教員採用試験合格者状況・合格者数 ..... 59

教員採用試験「大学推薦」の応募状況・合否結果 ..... 61

## 6. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組

介護等体験事前指導について ..... 62

2年次生対象「教育実習受講希望者ガイダンス」について ..... 63

3年次生対象「教育実習ガイダンス」について ..... 65

教員養成フォーラムについて ..... 67

教員採用試験合格者との情報交換会について ..... 69

教職専門科目担当者研究会について ..... 71

教員採用試験合格者壮行会について ..... 72

教員採用試験に向けて～支援制度を積極的に活用しよう～ ..... 73

教員採用試験 受験案内一覧 ..... 74

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 教職支援センター 利用状況           | 76 |
| 教職関係ガイダンス日程             | 77 |
| <b>7. その他</b>           |    |
| 教員免許状更新講習一覧             | 78 |
| 関西大学教職支援センタ一年報投稿規程・執筆要領 | 79 |

## **教員としての資質・能力を高める授業実践**

### **—2017年度・教職専門科目担当者研究会の報告—**

本年度も例年通り、年度末の2018年3月17日（土曜日）、午後3時から、教職専門科目担当者研究会を開催した。本研究会では非常勤講師で教育実習事前指導（教育実習Ⅰ3年次生、秋学期）、教育実習前後の指導（教育実習Ⅱ4年次生春学期）および教職実践演習（4年次生、秋学期）を担当いただいている西出博行先生（元大阪府立夕陽丘高校校長）から、基調報告として、ご自身の本学でのこれまでの上記科目の実践についてのお話をいただき、その後、参加者相互の意見交流を行った。当日は25名の先生方のご参加をいただき、活発な意見交換と討論を行うことができた。西出先生をはじめ、当日参加された先生方に、改めてお礼申し上げる。なお、本稿は、紙数の関係で西出先生の基調報告を収録し、意見交流会については、記録者の責任で、ご発言の要約のみを掲載させていただくことにした。なお、文中で言及されている当日配布資料は文末に掲載した。（教職支援センター長：山本冬彦記）

#### **I 基調報告・教員としての資質・能力を高める授業実践**

**関西大学非常勤講師 西出 博行**

##### **はじめに**

先生方こんにちは。ただいまご紹介いただきました西出でございます。みなさんの前でご報告できるような特別な授業実践をやっているわけではありませんが、過去、5年間、本学でどのような思いで、またどのような授業内容を実践して来たのかということを率直にお話しますなかで、この後の交流会の意見交流の場でたたき台にしていただいたらと思いますので、どうかよろしくお願いします。

私は38年間、主に大阪府立の高等学校で社会科の教員として教育に携わってまいりました。管理職になる前は府庁の私学課に席を置いて、2年間、大阪桐蔭高校を拠点に私学研究に携わった時期がございます。その後、府立高校に戻ってきて、教頭、2年、そして校長を8年、3校を経験しまして、なんとか無事定年退職を迎えた後、本学にお世話をなっている次第です。

本年度は3年次生の秋学期に受講します、教育実習事前指導、それからそのクラスを持ちあがりまして、4年次生の春学期に教育実習を挟みまして、前後ですね、計9回の授業がございます。教育実習Ⅱですね。それから最後、総まとめとしての、4年次生の秋学期に行います教職実践演習、この3科目を担当しましたので、主にこれらの授業実践について報告させていただきます。

## 1 教員として身に付けさせたい5つの要素

教師としての資質・能力を高める授業実践報告レジュメ、お手元にあるかと思います。それをご覧いただきまして、このレジュメに沿って話を進めてまいりたいと思いますが、そこに教員として身に付けさせたい要素として、5つ挙げております。この5つの要素を少しでも高めて教育界に送り込みたいと、また、教員に進まずとも、どの道に進みましても相通ずるものがございますので、そうした力をつけてそれぞれの道に送り込みたいと、そういう思いで授業を実践してまいりました。

一つ目は、授業に対して厳格に対峙することへの認識、二つ目は、学校現場における具体的な事例に対する対応力、それから三つめは、授業実践力、四つ目、コミュニケーション能力、五つ目にはプレゼンテーション能力と、この5つですが、これらの要素を高めるために具体的にどのような授業に取り組んできたのか、順次、話してまいりたいと思います。

### (1) 授業に対して厳格に対峙することへの認識を高める

まず、授業に対して厳格に対峙することへの認識を高めるために、ということですが、これは本気に気合を入れて教職に立ち向かってもらいたいとの思いから、授業には全期間を通じて、遅刻、欠席することなくすべて出席すると、こういうことを強く打ちだしております。最初の授業の時に、資料1に出ています用紙を配布して、欠席の場合は必ず事前に届けるように、そしてまた遅刻の場合は入室後に提出するように指導しています。この資料1の遅刻、欠席届ですが、そこに遅刻、欠席の事由を可能な限り詳細に記しなさい、証明する文書・資料等があれば、必ず提出するようにということで、ここで状況を書いてもらいまして、どれだけ配慮できる遅刻、欠席なのかということを判断するようにしています。緊急の場合には、電話かメールで連絡するようにというように指示しております。無断欠席する学生もおりますので、その時はこちらの方から、これも電話かメールでその学生に連絡をとって理由を聞くようにしております。それから特に4年次生になってくると教育実習(二)の期間中に就職試験関係の活動があるわけですが、そういった活動とか、実習校で行う教育実習の事前説明会、これらに伴う欠席に関しましては、資料1の裏面に資料2という用紙がありますが、ここに欠席の報告をしてもらっています。これが教育実習(二)の就職活動に伴う欠席ですが、できるだけ当日の活動内容を時系列で詳しく書きなさい、当日の活動を通じて感じたこと、学んだことなどを率直に記入しなさいということでこれを提出してもらっています。

ただ、教育実習校での指導教諭との一対一の事前打ち合わせというのがあるのですが、これが授業と重なる時があるのですが、その時には事情を言って、できるだけ日程を替えてもらなさいという風に指導しています。交渉すれば、だいたい替えてもらえるケースが多いです。単位認定の出席率は80%以上を原則としていますので、15回の授業の内、12回以上の出席が必要になります。ですから欠席は3回を超えないように、欠席2回の時点で必ず警告を発しております。教育実習(二)の場合は、これは申し合わせ事項があるわけですが、出席率100%が原則ですので、この場合は、正

当然理由のある欠席に関しては、先ほど挙げました欠席事後報告書と共に、欠席した時の授業に関連した内容の課題を与えて救済しております。

今年度の出席率ですが、そこのレジュメにも出ていますように、教育実習事前指導が 94.9%、教育実習(二)が 95.5%、教職実践演習が 94.4%となっています。教育実習と重なる欠席とか介護等体験、これは主に 3 年生の秋学期にあるのですが、これもかなり重なってくるのですが、これらに伴う欠席に限っては特別扱いとしており、欠席とカウントしておりません。それでもこの出席率ですので、あまり高い出席率とはいえないません。40 名のクラスでしたら毎回 2 名が欠席しているということになります。本当に真剣に教職と向き合っているのかと疑いたくなるような欠席もございます。去年の 11 月でしたか、4 年次生の教職実践演習を取っている学生が欠席しましたので、その夕方に本人に電話で連絡を取りますと、「今日は授業があったんですね。今のこの電話で初めて気が付きました、今日は曜日を間違えておりました」と、もう空いた口がふさがらないような、とんでもない欠席もございますので、このような欠席は極力なくしていきたいというふうに思っております。

私も授業への厳格な姿勢を示すために、5 分前には必ず教室に入って、そして本日のテーマを板書したり、資料を配布したり、伝達事項などを行っております。それから授業のチャイムが鳴ってから 5 分後なんですが、起立、礼をして、そしてお互い、お願いしますと挨拶を交わします。遅刻はこの時点からとておるのですが、というのは社会学部や経済学部の学生もおって、移動に時間がかかることがあるし、前の授業が延びて遅れることもありますので、こういう配慮をしておるんですが、5 分遅れてもいいんだという誤解を与えないようには注意しております。

教育実習ではやはりチャイムと共に起立、礼をして、そしてその時点で遅刻をとるんですよということは念を押しております。授業終了時にも起立をして、お互い、有難うございましたと礼を交わすわけですが、これは授業が一種の真剣な試合であるという思いから、厳格に行っております。この起立、礼に関しては、本学では珍しいようですが、やはりこれも教育実習の時とか、やはり教職についてからことを想定して、毎回、行っています。それから授業を受ける構えですが、机の上にペットボトルを置かないよう注意しております。これを認めるとお茶ばかりかジュース類も許すことになりますので、やはりこれも教育実習の時のことを想定して、厳格に行っております。それから授業中の居眠りとか、授業態度で気になる学生に関しては、机間指導の時ですか、あと授業終了時に学生を呼んで、事情を聴いて、お互いにコミュニケーションを図っております。

## (2) 学校現場における具体的な事例に関する対応力を高める

二つ目の学校現場における具体的な事例に関する対応力を高めるために、ということですが、今年度の授業で提示した学校現場における具体的な事例を資料 3 に掲げています。これらの事例に対してはじっくりと考えて自分なりの対応策や答えを出すように指導しています。教育実習事前指導の授業では①から⑨の事例を取り上げております。第 3 回の授業、「特別活動、部活動の実際と参加」では、③に出ております、どのような学級を作りたいですか、そのために特に実施したいことは何ですかという事例を

取り上げました。第4回の授業、「総合的な学習の時間」では⑥の事例、あなたは総合的な学習の時間の企画担当として、高校1年6クラスの総合的な学習の時間の年間計画を立案することになりました。各学期ごとに具体的に記述して下さい。このテーマを提示しました。第5回の授業の「生徒理解、生徒指導の実際」では⑦や⑧のような実際に裁判になった体罰事件やいじめ自殺事件を取り上げました。まだ教育実習を経験する前ですので、現状に即した適切で具体的な対応ということでは欠ける面があります。⑤の事例の、若いからといって経験のない競技の顧問を任せられたのですが、というこの事例なんですが、これに関しては、やはり学生たちは今までの部活動の体験に基づいた、非常に的確な具体的な対応策が出たように思います。

教育実習②の授業では資料3の2の①から③の事例を取り上げました。①の教育実習報告の1から3というのは、先輩たち3名の実習報告レポートのことです。それから②の事例1から6というのは教育実習現場で起こりうるであろう具体的な事例のことです。例えば、指導教諭から教室の掃除の監督を任せられたのですが、なかなか生徒たちは勝手なことばかりやって、積極的に掃除をしようとはしません。どのような対応策を取りますか。とか、授業中に難しい質問をされて十分に答えることができません。どういうふうに対応したらいいですか。こういった実際の想定事例なんです。

教職実践演習の授業では資料3の3①からまでのかなりいろんな具体的な事例、これもまあ一部なんですが、取り上げております。これは教育実習事前指導の時よりもレベルの高い事例を取り上げております。④のキャリア教育と進路指導とか⑤や⑥の学級経営、それから⑦の特別活動としてのボランティア活動、⑧の保護者対応、⑨の発達障がい、⑩、⑪の教育法規などに関する具体的な事例を取り上げております。発達障がいに関しては、今年初めて、子どもの発達障がいと共に大人の発達障がいを取り上げました。教材としては、去年でました『会社のなかの発達障害』という本なんですが、心療内科ドクターの星野仁彦さんが出した本です。実際の診察に基づいた非常に具体的な事例がたくさん出ていますので、この中からいくつかを取り上げました。

以上、多くの具体的な事例をあげましたが、教育実習②や教職実践演習ではまず個人ワークで自らが考える対応策を書き出した上で、グループワークに入り、そして発表という形で進めております。これらについてはまた後ほど詳しく述べたいと思います。

### (3) 授業実践力を高める

三つめ、授業実践力を高めるための取り組みですが、今年度の教育実習事前指導の場合は、第6回目以降、授業実践力を高めるための授業に入りました。第6回の授業の形態・組み立てでは、「元の襲来と鎌倉幕府」の内容を50分の授業で指導する場合、①本時の指導目標をどのように設定しますか、②導入をどのように行いますか、③まとめをどのように行いますか、といった内容を共通テーマとして出し、3名の学生に発表してもらいました。第7回の授業の技法では、「元の襲来と鎌倉幕府」の内容を50分の授業で指導する場合、①導入、展開、まとめの段階においてどのような発問を行いますか、②板書計画を作成しなさい。この二つに絞って課題を課して、5名の学生に発表してもらいました。第8回の授業では「元の襲来と鎌倉幕府」の内容で導入から展開を行う場合、どのように授業を進めますか、という課題を事前に与え、選ば

れた 4 名の学生がそれぞれ 15 分ずつ模擬授業を行い、全員で評価をするという形で授業を進めました。

導入をどのように設定して、そして展開につなげるのかという面ではまだまだ多くの課題が残りましたし、とにかく、前を向いてはっきりと力強い言葉で話すという基本テクニックがまだまだだなという感じはしました。第 9 回の学習指導案の作成の授業におきましては、先輩たちの模範的な指導案を二つ提示すると共に、指導案の具体的なひな形を説明しました。そして教育実習で予想される範囲内で各自テーマを設定して、そして学習指導案を作成しなさいという宿題を課しました。

いよいよ第 10 回目からは、5 回連続で模擬授業を実施しました。毎回 2 名が授業の前半と後半とに分かれて 30 分づつ模擬授業を行うわけですが、この人選は私は抽選で決めているんですね。予め全員分のくじを作りまして、それで 10 個の当たりくじと、予備要員として 1 個作りましてね、当たりくじにはその授業の実施日とその授業日の前半か後半かを書いております。このくじを引く光景を見ておりますとね、当たりくじを引いた学生はあまり喜ばずに暗い顔をしていますね。はずれくじを引いた人はほっとして嬉しそうな顔をしています。これは逆にならないとあかんといっているのですけどね。先生方は模擬授業を学生にやらせる場合、どのような方法で選ばれているのでしょうか。できましたら、意見交流の場で出していただければと思います。

模擬授業実施後は資料 4 に出ています評価表に記入してもらいます。評価の観点として 13 項目について、これは A から C の三段階評価、それからそれぞれコメントを書きなさいと。それで総合評価として、0.5 刻みで 1.0 から 4.0 まで 7 段階評価を課しております。評価基準というのは教育実習生を想定した場合としています。そして 0.1 刻みも時には OK だということにしているのですが。その後、評価者から感想をいつてもらうわけですが、評価はできるだけ厳しくするように念を押しています。教育実習生としての合格レベルを 3.0 に置いているわけですが、この時点ではなかなか 3.0 を超えてくる合格者は出ません。学生たちは非常に熱心にコメントを書いてくれます。しっかりとした的確なコメントや評価ができることが自分の授業力アップにもつながりますのでね、いい加減な評価をしている学生には事後に指導することにしております。評価は回収した後、私の方で点検しまして、次の時間に私のコメントと共にその学生の評価の平均値を発表します。この平均値は私の評価とそんなに大きくずれることはありません。殆ど一致することも多いです。やっぱり学生たちも的確に評価してくれています。本年度の評価平均値は 2.10 から最高 2.79 でした。前年度は 1.99 から最高は 2.87 となっています。2.0 を下回っている学生は年々減ってきました。この評価表はすべて授業実施者にお返ししまして、そしてこれをじっくりみて、今後の授業改善につなげなさい、ということで激励しております。

次に教育実習(2)における授業実践力を高める取り組みについてです。今年の 4 月から道徳の時間が、小学校で、来年 4 月からは中学校で正式の教科として発足するということもありますし、道徳の授業や高等学校での人権学習の授業に備えた授業ですね、これを 2 回行いましたが、実際に今年度教育実習で道徳の授業とか人権学習の授業を行ったという学生が 5 名ほどおりました。2 回の授業の内容ですが、第 3 回の授業では、「命の尊厳、豊かに生きるとは」という資料を活用して授業を実施する場合、①本

時の指導目標、②導入、③クライマックス、④主発問、⑤まとめ、以上をどのように行いますかという課題を与え、グループワークに取り組みました。第4回の授業では「カーテンの向こう」という資料を活用して、グループで道徳学習指導案を作成し、発表するという取り組みを行いました。この「カーテンの向こう」という資料ですが、この資料はちょうど5年前のこの研究会で発表者の藤井先生から出していただいた資料で、非常にいい資料なので、私も活用させていただいている。やはり道徳では、なんといってもどのような教材を使うかというのが勝負どころになってくるかな、というふうに考えております。

次に3の教職実践演習における授業実践力を高める取り組みですが、これは毎年2、3名の学生から50分間の模擬授業をやってもらっています。この時の人選は、これは抽選ではなくて、採用試験合格者のなかから選んでおります。さすがにこの頃になりますと模擬授業のレベルも高くなってきており、これも個人評価、グループ評価をしてもらうわけですが、この時の評価というのは、新任教員というのを想定しての評価基準ということでレベルも上がるのですが、さすがですね、3.0前後ぐらいまで上げてきます。

#### (4) コミュニケーション能力を高める

それでは4つめのコミュニケーション能力を高めるための取り組みについて話を進みたいと思います。昨年の3月に中学校の新学習指導要領が告示され、続いて、先月ですね、高等学校の改訂案が発表されました。その総則の中で、主体的・対話的で深い学びに向けて授業改善を進め、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むことが明記され、いわゆるアクティブラーニングの観点が明確に打ち出されました。そのような学校現場での授業に備えて、教育実習(2)や教職実践演習では積極的にグループワークを取り入れています。5、6名のグループを編成して、司会、記録、それから発表者を決め、学校現場における、先ほどいいました具体的な事例や模擬授業の結果について積極的に話し合い、協力して対応策や評価を出し、まとめるということを実践しています。この活動を通じて教員として欠かせないコミュニケーション能力のアップもねらっているわけです。このグループ学習については本学の講座でも、先生方おそらくそうだと思うんですが、積極的に取り入れているということもありまして、学生たちは非常に熱心に取り組んでくれます。

だだですね、グループの意見を一つに要約してまとめるというところまではいかなくて、いくつかの意見を羅列的にまとめてしまうんですね。お互いの意見を尊重するあまりに、十分な議論がなされていないという懸念もあります。一つの事例にもっと時間を割いて、そして深く話し合い、グループの意見としてまとめ上げるというところまで持って行かなければならぬなというふうに感じております。

コミュニケーション能力が問われるるのは模擬授業の時ですが、授業は生徒と共に作る共同作業であるということを口が酸っぱくなるほど言っております。発問や指示、机間指導によってできるだけ生徒とのコミュニケーションを密にして、絶対に一方通行の授業にならないように、これは徹底して念を押しております。授業で重要なポイントを占める発問に関しては、単に知識を問う発問とか、単発的な発間に終わっ

てしまって、考えさせる発問とか、深く掘り下げて本時の指導目標に迫るような、そういう発問にまで持って行けてないというのが現状です。もっとコミュニケーション能力を高めて、的確でタイムリーな発問ができるようにしなければならないなと思っています。

### (5) プレゼンテーション能力を高める

5つめのプレゼンテーション能力を高めるための取り組みですが、具体的な事例や模擬授業の評価について、自らの考え方やグループの総意を力強く明確に筋道を立てて発表することができるよう指導致しています。基本的には教室の前に出てきてもらいまして、そして、全員に向かって発表するという形態をとっています。3分という時間を設定しておってもですね、2分ぐらいで終わってしまったり、どうまとめていいか立往生ですね、混乱してしまうケースもあるのですが、おおかたの学生は自分の考え方やグループの意見を上手くまとめて発表できるなあ、ということはつくづく思います。だんだんそう感じてきました。まあ、それは他の授業でも鍛えられているんだなと思います。特に教育実習を終えたあとのプレゼンテーションは、やっぱり目を見張るものがありまして、力強い言葉で筋道を立てて、きちんと発表できるケースが多いですし、制限時間を設定しておっても、ずっとオーバーして熱心に発表してくれるケースもあります。グループ発表の場合、ふたつのグループ同士で突っ込んだ質問をし合ったり、疑問点を出し合ったりして、競わせる場合もありますし、どのグループの発表が一番良かったかということを投票して競わせる場合もございます。

教育実習(二)の第9回の最終回の授業では4人のパネラーが教育実習の体験レポートに基づいて、教育実習の総括を行い、自らの体験を発表し意見交換を行うというパネルディスカッションの形態をとりました。私がファシリテーターを務めるわけですが、この4名のうち、1, 2名は教員ではなくて企業等へ進む学生を選んでいます。今年度もですね、一旦は企業に進みますが、いずれは教員の道を進みたいと思表示をした学生もありました。

この他にも表現力や対応力を高めるためにロール・プレイングをやれたらと考えているんですが、先生方のなかでロール・プレイングを取り上げられている先生がおられましたら、この後の意見交流の場で出していただければ有難いかと思いますので、よろしくお願ひします。

## 2 成績評価、採用試験などのこと

### (1) 授業での成績評価

以上、教員としての資質・能力を高めるための授業実践ということで、5つの観点から授業の取り組みを報告してまいりましたが、最後に成績評価のことについて触れておきたいと思います。これもレジュメに出ていますが、教育実習事前指導と教職実践演習の場合ですが、授業の最終回にまとめテストを実施しております。時間は60分で、今年度は基礎的な知識を問う問題が25問の50点、論述問題が3題の50点、

計 100 点満点ということにしております。授業出席点、これも 50 点満点、欠席 1 回につきマイナス 10 点、遅刻 1 回につきマイナス 5 点としております。介護等体験とか教育実習と重なった授業での欠席は出席扱いとして減点はしておりません。評価点は、まとめのテスト、これを 2 で割りまして、それに授業出席点を加える、これをベースにして、あと提出物、授業時の評価、授業態度等をプラス 10、マイナス 10、この範囲でつけまして、100 点満点で評価点を出しております。今年度の評価結果はレジュメに出ている通りです。両科目とも良を頂点に放物線を描いた分布になっていますが、もう少し可を減らして優をもうちょっと増加してレベルアップできればいいなと考えております。

教育実習事前指導で不可が 2 名出ておりますが、これは授業期間の途中でリタイアした学生です。教職専門科目に先生方、携わっておられると思うんですが、成績をどのように出しておられるのか、これもし時間がありましたら、後の意見交流の場で出していただけたらと思います。

教育実習(二)の場合には、教育実習に関する評価と平常点をそれぞれ 50 点満点で出しております。これは教育実習(二)を担当されている先生方は、ほぼ共通されていると思うんですね。特に教育実習に関する評価の 50 点満点のほとんどが、これは教育実習校の評価点を出しております。教育実習校では 3 つの評価観点があるんですね。学習指導、生徒指導、それから実習態度、この 3 項目について A、B、C、D とつけてくるんですが、一つの A を 15 点、B を 10 点、C を 5 点としております。だから A、A、A でしたら 45 点、B、B、B でしたら 30 点、B、B、C でしたら 25 点と、こういうことで私の場合は出しています。今年度の評価では優が 18 名と最も多くなっております。これはまあ、実習校における評価が大きなウエイトを占めますので、実習校で A 評価を出してきた場合は、だいたい優になる可能性が高いです。可が 1 名でおりますが、この学生は実習校の評価が C でした。教員としての資質・能力におきましては他の学生とはだいぶ差があるなど、今まで述べたような能力が十分つけることができていないなと感じていた学生なんです。

5 つの観点から授業の実践報告をしてまいりましたが、ちょっとお茶を飲みます。学生にも授業中飲んでもいいと言っているんですが、ただ、必ず、カバンの中か、机の下に置きなさいと言っております。

## (2) 採用試験の合格者数など

私は戦後の団塊世代の終わりの方の世代に当たるわけで、同期の仲間たちはほとんど定年退職を迎え、再任用の期間もほぼ終えております。それと共に、大阪府もそうですが、全国的にも教員採用の数がですね、減少し始めております。今年度の大坂府の合格者数、かなり厳しいものがありました。中学校、前年度 503 名の合格者を出していたのですが、今年度は 298 名、高等学校に至りましてはね、前年度 621 名の合格者がなんと 215 名と約三分の一に絞られたんです。私のクラスでは大阪府をはじめ 13 名の学生が採用試験にチャレンジしたのですが、最終的に合格を勝ち取ったのは、大阪府の高校世界史の 2 名だけでした。大阪府の 3 次選考と私学の最終選考が重なったので、私学をとってしまったという学生も 1 名おりましたが、それでもね、毎年、

5名から6名、多い時には7名合格していた時と比べると厳しい結果となっております。大阪府の教員チャレンジテストを3年次生の時に合格した者が2名おったんですが、この2名は最終的には合格できませんでした。チャレンジテストといえば、次年度ですね、採用試験に向けて、大阪府は今年の正月明けにチャレンジテストを行なったんですが、その結果、4,586名の受験者のうち、75%以上の正答率で合格したのがわずか106名、43人に一人という合格の割合なんですね。このチャレンジテストを合格しておれば一次テストは免除と、しかもそれが2年間有効ということもありますし、かなりの学生が受けているわけですが、非常に厳しい結果です。

今後ますます、教員の採用試験は厳しさを増すものと思われます。本当に教員になるつもりならば、出来る限り早い段階から本気になって教職と向き合わなければならぬというふうに痛感しております。合格を勝ち得ていない学生は概ね、絶対に教員になるという執念が今一步というところで、取り組む時期も遅いかなと思います。先ほどお話しした合格した2名の学生ですが、そのうちの1名はですね、本番の面接に備えて教職支援センターの模擬面接を20回近く受けたというふうに言ってました。それからもう一人の学生はですね、大阪府には3次試験で模擬授業というのが課されるわけですが、その模擬授業に備えて本番練習を30回以上繰り返したと。本番では制限時間が4分30秒なんですが、4分30秒、ぴったりと終えることができたと話してくれました。やはりそれだけですね、絶対に合格するんだという強い気持ちというのが必要なのかなというふうに思います。

これから教員になるための閑門を突破するためには、先ほどから申しております5つの能力の他にも総合的な人間力が問われてくるかと思います。このような力を少しでも高めて、そして、教育界に送り込みたいという思いです。これからも教職の授業に取り組んでいきますので、今後ともどうかよろしく願いします。どうも有難うございました。(拍手)

## II 基調報告を踏まえた意見交流会

西出先生の報告の後、直ちに、若槻健、本学関西大学教職支援センター副センター長の司会による、意見交流会に移った。まず、西出報告が参加者に向けた問い合わせ、「どうやって模擬授業の担当者を選んでいるのか」、「ロール・プレイのやり方」、「成績評価の方法について」の3点についての発言が参加者より行われた。以下は、その要約である。

### 1 模擬授業の実施に関する事柄

模擬授業の担当者の選出については、学生から参加者を募るというやり方、時間は短くても全員に行わせるやり方の二つに概ね分かれた。参加者を募るという場合は、積極的に手を上げてくれる学生が多いが、なかにはなかなか手が上がらない時もあり、そんな場合は、教員から担当するようにと働きかけるとのことだった。また、全員が実施する場合でも、学生がきっちり取り組む場合が多いとの発言があった。選抜してやらせる場合の課題としては、クラスあたりの履修者が多いのでなかなか全員にやらせることが出来ないという提起があった。

また、模擬授業を実施する場合には、西出報告にあったように、受講する他の学生には、評価基準が明記された評価票を配布し、評価のポイントを指示した上で、個々の模擬授業について、受講者全員が評価を行い、それを授業実施者にフィードバックするという方法がとられていた。

## 2 学習指導案の作成に関する事柄

現場教員で教育実習生を受け入れた経験から、最近の学生が指導案が書けないという実習生の受入現場の認識があるという指摘があった。30数名のクラスでは、何とか学生の書いた指導案を添削することができるが、それが人数的には限界であるとの発言もあった。また、はじめ学生の書くものは「指導案」ではあるが「学習指導案」でない、それは、知識に重きを置いているので、学習指導要領にある思考力、判断力、表現力に重点が置かれてはいらず、授業を通して教育の目的である人格を形成することにはなっていない、という発言があった。また、指導案を書かせるに当たっては、すぐれた指導案の例を示していることが何人もの発言者から共通して語られていた。

## 3 教科教育法や授業を通じてのコミュニケーション能力の形成について

国語科教育法の担当者からは、2年次や3年次での教科教育法で学習指導案の作成や模擬授業の実施以前の問題として、教科教育法履修以前、あるいはそれと並行して教科書の内容についての勉強会などを課外ででもいいから実施する必要があるという提起があった。また、保健体育科の教員になる学生の指導では、体育の活動が出来にくい、苦手な子どもに対する指導について、学習指導案の中に必ず記述するようにと指示するという発言があり、これは他教科についても同様のことがいえるとの指摘もあった。

また、ロール・プレイについては数人の方から実施の状況が報告された。またコミュニケーション能力の形成についても、ロール・プレイやグループ・ワークでの学生同士の意見交換や討論の中でも、十分な議論の成熟には至らず、意見の羅列になってしまふことなどの例も述べられた。

2018年3月17日 教職専門科目担当者研究会（当日配布資料）

## 教員としての資質・能力を高める授業実践

関西大学非常勤講師 西出 博行

はじめに

### 教員として身に付けさせたい5つの要素

1. 授業に対して厳格に対峙することへの認識
2. 学校現場における具体的な事例に関する対応力
3. 授業実践力
4. コミュニケーション能力
5. プレゼンテーション能力

#### I 授業に対して厳格に対峙することへの認識を高めるために

1. 授業には、全期間を通じて遅刻・欠席することなく出席する。
  - ①遅刻・欠席の場合は事前に届け出る（資料1参照）
  - ②就職試験、及び教育実習事前説明会に伴う欠席の場合は、事後報告書を提出する（資料2参照）
  - ③単位認定の出席率は80%以上（「教育実習（二）」は原則として100%）とする。

今年度 出席率→「教育実習事前指導」94.9% 「教育実習（二）」95.5% 「教職実践演習」94.4%

2. 授業の開始・終了時には、起立・礼をしてきちんと挨拶をする。
3. 授業を受ける構えを万全にする。

#### II 学校現場における具体的な事例に関する対応力を高めるために

- 1 「教育実習事前指導」における今年度の取り組み（資料3の1参照）
- 2 「教育実習（二）」における今年度の取り組み（資料3の2参照）
- 3 「教職実践演習」における今年度の取り組み（資料3の3参照）

#### III 授業実践力を高めるために

##### 1 「教育実習事前指導」における今年度の取り組み

- ・第6回 授業の形態・組み立て→「元の襲来と鎌倉幕府」の内容を50分の授業で指導する場合
  - ①本時の指導目標をどのように設定しますか。
  - ②導入をどのように行ないますか。
  - ③まとめをどのように行ないますか。
- ・第7回授業の技法→「元の襲来と鎌倉幕府」の内容を50分の授業で指導する場合
  - ①導入・展開・まとめの段階においてどのような発問を行いますか。
  - ②板書計画を作成しなさい。
- ・第8回 模擬授業→「元の襲来と鎌倉幕府」の内容で導入～展開を4名各自15分で実施し評価
- ・第9回 学習指導案の作成…テーマは教育実習で予想される内容

- ・第10回～14回 模擬授業…毎回2名、事前に抽選で選ばれた人が30分実施→評価(資料4参照)

## 2 「教育実習(二)」における今年度の取り組み

- ・第3回「授業の組み立て・技法」演習→資料「命の尊厳、豊かに生きるとは」を活用して授業を実施する場合 ①本時の指導目標 ②導入 ③クライマックス ④主発問 ⑤まとめ 以上をどのように行ないますか。
- ・第4回 道徳学習指導案の作成→資料「カーテンの向こう」を活用しグループワーク、発表

## 3 「教職実践演習」における今年度の取り組み

- ・第13回～14回 模擬授業…教員採用試験合格者によって50分実施→グループ評価、発表

## IV コミュニケーション能力を高めるために

- ・「教育実習(二)」「教職実践演習」において、5～6人のグループを編成し、司会、記録、発表者を決め、具体的事例や模擬授業の結果について話し合い、協力して対応策や評価を出します。
- ・模擬授業においては、発問や指示、机間指導等によってできる限り生徒とのコミュニケーションを密にし、一方通行の授業にならないよう徹底する。

授業は生徒とともに作り上げる共同作業

## V プレゼンテーション能力を高めるために

- ・具体的な事例や模擬授業の評価について、自らの考え方やグループの総意を力強く明確に筋道を立てて発表することができるよう指導する。
- ・パネルディスカッションを取り入れることにより、自らの思いをしっかりと伝える能力を養う。

(「教育実習(二)」 第9回の授業において、4人のパネラーが教育実習体験レポートに基づき教育実習の総括を行い、自らの体験を発表し意見交換を行う)

## VI 成績評価について

### 1 「教育実習事前指導」「教職実践演習」の場合

- ・授業の最終回に「まとめテスト」を実施する。時間は60分、内容は基礎的な知識を問う問題が25問50点、論述問題3題50点
- ・授業出席点は50点満点、欠席1回につき-10点、遅刻1回につき-5点、但し介護等体験・教育実習に伴う欠席は出席扱いとする
- ・評価点=(「まとめテスト」得点÷2)+(授業出席点)+-(提出物・授業時の評価・授業態度等)
- ・今年度の評価結果…「教育実習事前指導」→秀0 優8名 良15名 可8名 不可2名 「教職実践演習」→秀1名 優10名 良12名 可10名 不可0

### 2 「教育実習(二)」の場合

- ・教育実習に関する評価(50点満点)=教育実習校評価+教育実習簿評価
- ・平常点(50点満点)=授業出席点+提出物・授業時の評価・授業態度等
- ・今年度の評価結果…秀2名 優18名 良15名 可1名 不可0

おわりに

**資料 1****遅刻・欠席届** ( 講座担当者 西出 博行 ) 2017 年度

○受講者氏名→

○講座名→

○遅刻・欠席の日時→ 月 日 第 時限

○遅刻時の入室時間→ 時 分

○遅刻・欠席事由 ( 届出日→ 月 日 ) 可能な限り詳細に記すこと

|  |
|--|
|  |
|--|

※証明する文書・資料等については、事前または事後に必ず提出すること

**資料 2**

2017 年度 教育実習(二) 報告課題 氏名( ) 出席 No.( )

I . 欠席(または遅刻)当日の就職活動の様子について

①日時 ( )月( )日 ( )時( )分 ~ ( )時( )分

②企業等の名称、及び場所 (所在地の都市名も記入)

③活動内容 (時系列で詳しく記入)

④当日の活動を通じて、感じた事、学んだ事などについて、率直に記入

|  |
|--|
|  |
|--|

**資料 3**

【授業で提示した学校現場における具体的な事例】

**1 「教育実習事前指導」の場合**

①教育実習初日、生徒向けの挨拶をどのように行ないますか 【第 1 回 教育実習の目的・意義と概要】

②毛天涯 章平・著「ふきのとうの餃別」の『落下傘げんこつ』を読んで→この先生のげんこつをどう思いますか？あなたならどう指導しますか 【第 2 回 教師の資質・能力及びその向上】

③どのような学級を作りたいですか？そのために特に実施したいことは何ですか【第 3 回 特別活動・部活動の実際と参加】

④生徒を厳しく叱ると、そのあとはピリッとした雰囲気になるのですが、私の顔を窺いつつ「なんとなく叱られたからやっている」という感じがあります。叱らない方が心が通い合っているような気もして、最近は叱るのも躊躇しています。どのように対応したらよいのでしょうか 【同上】

- ⑤若いからということで、経験のない競技の顧問を任せられたのですが、生来の責任感の強さから「自分で大丈夫だろうか?」といつも不安を感じています。そのせいか、生徒たちは私の組んだ練習メニューを疑っている気がして信頼感も深まりません。どのように対応したらよいでしょうか 【同上】
- ⑥あなたは「総合的な学習の時間」の企画担当として、高校1年6クラスの「総合的な学習の時間」(1単位)の年間計画を立案することになりました。実施時間は木曜日の5限目で、6限目にはホームルーム活動の時間が入っています。1学期10回、2学期10回、3学期5回の授業を実施すると想定し、具体的にどのような内容の学習を展開していくのか、各学期ごとに具体的に記述して下さい。なお、授業は学級担任と副担任、合わせて12名が連携して実施するものとします 【第4回 総合的な学習の時間】
- ⑦「東京都東久留米市立中央中学校体罰事件」について、どう考えますか?あなたならどう対応しますか 【第5回 生徒理解・生徒指導の実際】
- ⑧「中野富士見中学いじめ自殺事件」について、どう考えますか?あなたならどう対応しますか 【同上】
- ⑨A教諭のクラスの生徒が、期末考査3日目の理科の試験でカンニングをした。当該校の校則では、1科目でもカンニングを行うと、その定期考査の期間中に受験したすべての科目を0点とみなし、特別指導(停学指導)を行うことになっている。この生徒は学力が低く、今回はどうしても覚えきれなくてカンニングペーパーを作って試験中に見てしまったとのこと。他教科の試験は実力で受けたと言っている。担任としては、全科目0点は厳しすぎると思っているが、どのように対処すればよいか 【同上】

## 2 「教育実習(二)」の場合

- ①教育実習報告1~3の内容に関して、思うところをまとめなさい 【第1回 教育実習の心得】
- ②次の事例I~6に対して、教育実習生としてどのように対応しますか 【第2回 具体的事例への対応】
- ③どのような実習授業を実施しますか 教育実習期間中、何をモットーに取り組みますか 教育実習を通じて何を学びたいと思いますか 【第6回 教育実習への思い】

## 3 「教職実践演習」の場合

- ①基調事例「ある中学校校長の告白」、具体事例1「あるベテラン教師の反省」、具体事例2「素直に生徒に謝ることのできる教師は尊敬できる(ある卒業生の声)」を読んでどう考えますか? 指示された観点よりまとめてください 【第3回 教師に求められる資質・能力】
- ②高校3年生になってから休みが続いているAさん、2年生の3学期に、クラスの友達との関係がこじれたことが休みだすきっかけだったと前担任から聞いています。母親によると、3年になってからは完全なひきこもり状態に近く、身体症状も激しくうつ状態になることが多いようです。医療機関への受診を勧めたいのですが、ど

こにもつながらないまま今に至っています。このままでは留年になる危険性も高いため、一日も早く専門機関につなげる必要があります。本校にはスクールカウンセラーがいないため、担任である私が対応することになるのですが、どのような点に留意して対処すればよいのでしょうか 【第4回 生徒指導】

③次の事例(瀬尾 大・著「不登校、その知られざる現実と正体」より抜粋)を読んで、あなたがAさんの担任だとしたら、この問題の解決のためにどのような行動を取りますか 【同上】

④あなたは高校1年学年団(8クラス)の進路指導担当です。いろんな職業の実態を学び自己の進路選択に役立たせるため、木曜日6限のLHRの時間(5限は総合的な学習の時間が設定されている)を活用して、3週連続で統一HRを実施することになりました。どのような形態で実施しますか。事前の取り組みも含め、具体的に3回分の実施計画案を作成してください 【第5回 キャリア教育と進路指導】

⑤教職経験10年の公立高校英語の教員で、現在1年の学級担任をしています。1学期の全教科の平均点は他のクラスと比較してそれほど大きな差はなかったのですが、2学期になってほとんどの教科でクラス平均点が全体を下回り、成績上位のクラスとの間に大きな格差が生じてしまいました。教科担当の先生からは、授業中の集中力に欠け学習意欲に乏しいとの声をよく耳にするようになりました。確かに学級経営においても、担任の思いが十分に伝わらず、クラスのまとまりのなさを感じています。遅刻・欠席も他のクラスに比べ多くなっています。クラス全体の学力を向上させるためには、担任としてどのような取り組みをすればよいのでしょうか 【第6回 学級経営】

⑥今、中学3年の学級担任をしています。先日、A君の母親から「うちの子が学校でいじめを受けており、もう学校に行きたくないと言っている」といった内容の電話を受けました。A君はおとなしくて生活態度もまじめで成績も優秀な生徒ですが、そういえば6月に入って、暗い顔をして考え込んでいる姿を何度か見かけたことがあります。早速、A君を呼んで事情を聴いたところ、「クラスのBを中心とする3人組から、持ち物を隠されたり、廊下でわざとぶつかられたり物を投げつけられたりしている」とのことでした。これは深刻な問題です。担任として早急にどのような行動をとればよいのでしょうか 【同上】

⑦高等学校において、学級単位、学校全体、あるいはクラブ単位でボランティア活動を実施する場合、学級担任、生徒会担当、あるいはクラブ顧問として、どのようなアイデアを提供しますか。

その内容、実施に向けた事前の取り組み、実施の詳細、事後の取り組みについて、企画・立案してください 【第9回 特別活動】

⑧次の事例に関して、担任や管理職はどのように対応すべきであったと考えますか 【第10回 保護者対応の実際】

F小学校で、マット運動の後、6年生男子が借りていた体育館シューズを投げるようにして持ち主に返した。担任教師はその子の日頃の行動に問題を感じていたので「どうしてそんな返し方をするんだ」ととがめ、胸ぐらをつかんで押し倒した。帰宅後、その児童が「体罰をされた」と訴え、次の日に母親が学校に抗議に訪れた。

担任もその事実を認め、校長などの管理職ともども謝罪するが、それに納得せず、警察に告訴すると申し出た。さらに担任を変えるように要求しはじめた。この件で学級懇談会も開催された。その後に「〇〇さんの行動(告訴)には疑問を感じる。何かあったら応援します」と何人かの保護者の申し出もあった。

告訴した段階で、本人である親がマスコミに情報を伝え、新聞でも報道されるに至った。その後、何回かの話し合いを持つが、事態は進展しなかった。

⑨発達障がいの事例1(大人)、事例2(生徒)に対して、あなたは同僚として、または担任としてどのように対応しますか 【第11回 発達障がい者への対応】

⑩本校は日々、生徒指導に追われている荒れた中学校です。今まででは喫煙や暴力事件が多く発生しましたが、最近では盗難が頻発しています。3年生には対立する二つのグループが存在します。先日、真面目な生徒から、「ボス格の二人がナイフやチーンをもって学校に来ている」との訴えがありました。このような場合、学校としてどのような対応をすればよいでしょうか 【第12回 教育法規】

⑪二学期が始まって間もないある日、A市に大型の台風が接近した。暴風雨警報が発令され雨がさらに激しくなると予測されたことから、A市立某小学校の校長は、授業を打ち切り臨時休業にすることを決め児童全員を下校させた。五年生のBはクラスメートとの下校中、ふとした拍子に増水した用水路に転落し、急流に流されてしまった。警官や消防隊が緊急出動し捜索にあたったが、翌日遺体で発見された。Bの保護者は校長の判断を批判し、損害賠償を求める姿勢を示している。果たして学校側は損害賠償に応じる責務があるのだろうか 【同上】

## 授業評価

評価者氏名【

】

資料4

|                     |                         |      |         |
|---------------------|-------------------------|------|---------|
| 授業実施者               |                         |      | 実施日 月 日 |
| 対象校種・学年・教科          | 校種(中学校・高校) 第( )学年 教科・科目 |      |         |
| 授業テーマ               |                         |      |         |
| 評価の観点               | 評価 A ~ C                | コメント |         |
| 声の大きさ、抑揚、力強さ        |                         |      |         |
| 話すテンポ、間の取り方         |                         |      |         |
| 話術、聞き取りやすさ          |                         |      |         |
| 顔の表情や指導態度           |                         |      |         |
| 顔や目の向き              |                         |      |         |
| 説明の分かりやすさ           |                         |      |         |
| 授業の導入、流れ、組み立て       |                         |      |         |
| 授業目標の明確さ            |                         |      |         |
| 発問の内容、発問のテクニック      |                         |      |         |
| 生徒とのコミュニケーション       |                         |      |         |
| 板書のタイミング            |                         |      |         |
| 板書の内容、板書の見易さ        |                         |      |         |
| 授業内容の工夫度            |                         |      |         |
| 総合評価 7段階(0.5刻みで1~4) |                         |      |         |
| 教育実習生を想定した場合        | 授業全般の感想・アドバイス           |      |         |
| ○観点別評価(A~C)         |                         |      |         |
| A→合格レベルを上回っている      |                         |      |         |
| B→ほぼ合格レベルに達している     |                         |      |         |
| C→合格レベルに達していない      |                         |      |         |
| ○総合評価(1~4) 0.5刻み    |                         |      |         |
| 4→合格レベルを遥かに上回る      |                         |      |         |
| 3→合格レベルに達している       |                         |      |         |
| 2→合格レベルに達していない      |                         |      |         |
| 1→合格レベルにほど遠い        |                         |      |         |

※総合評価は原則0.5刻みとするが、0.1刻みも可とする